秋(11 月～12 月)に活動

石からはじまる火熾し大作戦

～らいおん組、火熾しが深まった遊びの事例について～

「石から火って熾せるんだよ！」という一人の子どもの話から、「そうなの！？」「やってみようよ！」と盛り上がり、「できないな…」「こうしたらどうかな？」と試行錯誤を重ねながら遊びが深まっていきました。そんならいおん組が遊び込んだ、火熾しの事例を火熾し大作戦と名前をつけてみていきたいと思います。

らいおん組の姿-背景-

火熾し大作戦が始まる前の子どもたちは以下のような経験をしていました。

・秋祭り(11 月 29 日)での火熾し体験をした。
・そのことがきっかけで、翌週の月曜日に多摩川の土手で焚き火を作って遊ぶ姿があった。
・食育でぶりをさばいているところを見ている。

多摩川の土手で焚き火ごっこをしてみた！

前回していた焚き火が楽しかったようで、数人の子どもたちが焚き火を作っていると、Ｒちゃんが「石と石で火つけれるよ！」と言い、下に落ちている石を手に取り、石と石をすり合わせてみせてくれました。そこで、「そうなんだ！先生もやってみよう！」と二人で石をすり合わせて、火熾しに挑戦していると、焚き火を作っていた、H.Oちゃんや I ちゃん、Ｙちゃんが「なにしてるの？」と興味を持って話しかけてきました。みんなにこれまでの経緯をＲちゃんと一緒に説明すると、「私もやりたい！」と参加してきました。

焚き火ごっこ～！
本当に火がついたら
いいのにね！

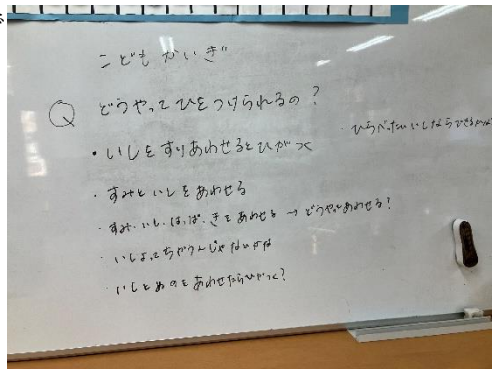
しばらく石をすり合わせてみるけれど、火はつきません。すると、「なんでかな？」「どうして火つかないのかな？」「強くやったほうがいいんじゃない？」「薄い石のほうがいいのかな？」などと、子ども同士で話し合いが始まりました。「こっちの赤い石の方がいいんじゃない？！」「小さい石だとどうかな？」と話し合いながら、湧き出した疑問を口に出して、思考している様子がありました。
様々な方法で試してみたけれど、どうやっても火はつかず、行き詰っている様子だったので、「どうやったら火がつくのか、保育園に持って帰ってみんなで話し合ってみる？」と聞くと、「そうしたい！子ども会議で話し合おう！」と話がまとまりました。

子ども会議で話し合ってみた！

ことの経緯を子どもたちにはなし、議題「どうしたら火をおこすことができるのか」を子ども会議で話し合ってみました。すると、「できる石とできない石があるんじゃない？」「石を擦り合わせたらできるんじゃない？」「炭と石を合わせたらできるんじゃないかな？」とたくさんの意見がでり、お家の人に聞いたり、調べたりすることになりました。

できる石とできない石があるのかな？

その種類ってどうやってわかるのかな？

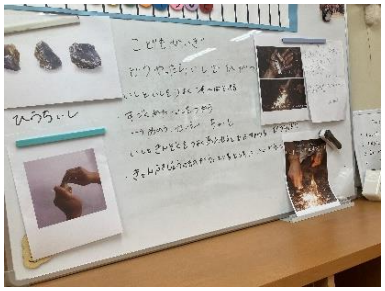


翌日、給食終わりにもう一度、子ども会議をひらいてみました。朝から、「調べてきたよ！」や「聞いてみたよ！」と声を掛けてきてくれていた子どもたちに、発表の場を持てるように機会を設けました。

すると、石の中にも種類があることや、石と金属をすり合わせると火がつくことなどが子どもたちの中からでてきました。「えー！石にも種類があるの？！」「土みたいだね！」と春に進めていたどろだんごの時の知識が出てくる様子もありました。

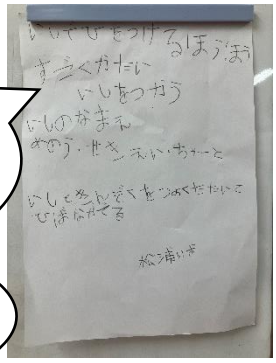
そこで、「先生も調べてきたよ！」という流れで、火打石や火打ち棒の存在を写真に出して見せました。すると、「こんなのがあるんだ！」「キャンプに行ったときに見たことある！」と盛り上がりをみせました。

そして、子ども会議の次の議題を「火打石や火打ち棒はどこで手に入れることができるんだろう？」と掲げ、話し合いを次の段階に進めました。子ども会議で話し合ってみると、「園庭にある石とか棒で探してみる！」という意見が多かったので、「じゃあ、園庭で探してみて、もし見つからなかったら何でも知ってる園長先生に聞きに行ってみる？」と聞くと、満場一致で「そうしたい！」と話がまとまりました。



火がつく石は、メノウ・セキエイ・チャートだった！

チャートは近くで拾えそうだね！



園庭で火打ち石(チャート)を探してみた！

「時間を 10 分と決め、最初の 10 分はみんなで探して、そのあとは探したい人は探す、自由遊びしたい人は遊ぶというのはどうかな？」と聞くと「それがいい！」と賛成を得られたので、そのような流れで火打ち石探しが始まりました。

探してみると、思っていたよりもたくさんの石が見つかりました。「ツルツルの石の方が火でるんじゃない？」「この石とこの石見て！白い方がツルツルだからこっちの方が合わせやすくて火がでるんじゃないかな？」「棒と石を合わせたら火打ち棒みたいにできるんじゃないかな？」などと実際に石に触れて、これまでの知識や体験と繋げ、色々な思いが湧き出てきている様子でした。

しかし、園庭ではチャートらしき石を見つけることができなかったので、多摩川の土手まで探しに行くことになりました。チャートを探しに水曜日にはじめて土手に行ってみたのですが、チャートを見つけることができませんでした…。そこで、どうして見つけることができなかったのか話し合いを次の日にしました。話し合いのなかで、「チャートがどんな石か覚えてられない！」という意見がでたので、今度は写真を持って、トンカチもいくつか持ってでかけることに、話がまとまりました。

その後、保育者が調べてみるとチャートという石は、府中の方の多摩川までいかないと手に入らないことがわかりました。

しかし、子どもたちが真剣に調べ、一生懸命探す様子に、どうしても火打石を自分たちで見つけて拾わせてあげたい！自分たちで拾ってきた石で火熾しさせてあげたい！という思いが湧き出てきて、府中の方まで行って、火打石を拾ってそれをさりげなく土手に置いてくるという保育者の思いと仕込みがあって多摩川の土手まで行ってきました。

この石写真の石と似てないかな？！色とか模様とか似てるよ！

ついにチャートを…！

土手に着くと、子どもたちは一生懸命に石を探し、写真と見比べていました。トンカチで叩いてみたときの音の違いにも注目し、「写真と同じ模様の石は、カンカンカンっていう！」と教えてくれました。なので、一緒に音を聞き、「確かに！高い音がするね！金属音みたいだね！」と音の高さや他のものに例えて返答みると、「ほんとだ！他の石より音が高い！」「ねえ！聞いてみて！」と子どもたち同士でも音の違いを聴き合って感じていました。そしてついにチャートを見つけることができました。「これ絶対チャートだよ！色も音も！」「チャート見つけられた！」と子どもたちは大喜び。いくつかチャートを見つけると、そのチャートを手掛かりに他の石を探す姿もありました。

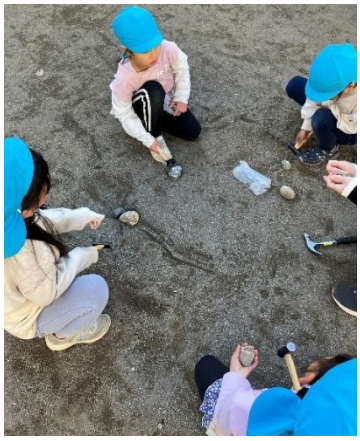
最初は「先生！これどうかな？」「先生！この石みて！」と保育者に声を掛ける様子が多くみられていたのですが、「写真とみくらべてみたらどうかな？」「音とか色とか大きさとかに違いがありそうだよね」と助言してみると、「そうか！」と自分たちで考え、次第に子ども同士で話し合いながら、チャートを探していました。

園庭でチャートを叩いてみるけど…

金曜日の午後(12/6)にさっそく、拾ってきたチャートをトンカチでガンガン叩いてみました。すると、「割れちゃったよ！」「叩いても火がでない～！」「叩いたらすぐにとんで行っちゃう！」と大苦戦…。保育者も一緒に挑戦してみたのですが、風も強く上手く火がつきませんでした。

そこで、一度集合し、子どもたちと相談して火打ち棒についてる石とチャートをすり合わせてみたのです

が、これでも火はつきませんでした。



火打ち棒で火熾しに挑戦！

どうしてもチャートで火をつけることが難しかったので、子どもたちとどうするか話し合った結果、以前に「石以外にもこんなもので火がつけられるんだって！」と見せていた火打ち棒で火をつけてみるのはどうかという意見がでてきました。そこで、保育園にあった火打ち棒で火熾しに挑戦してみることに。はじめ、園長先生が何度か挑戦してくれていると、火花が散りました。子どもたちは、「え！？いまついたよ！」「すごい！！火ついてる！！」「先生！みた？！すごいよ！」と大興奮。

そこから、火花が散るので、ティッシュやわたなどに火を移せないかと頑張ったのですが、風も強く、黒く焦げ跡は残るのですが火は移らず…でした。

しかし、子どもたちは火が移らなかったということでは興味は失われず、火打ち棒で火花を散らせたいということに興味が湧き、何度も何度も挑戦する様子がみられました。上手くできた子にコツを聞き、「角度はこれくらいかな？」「黒くないほうが火がつきやすいんだって！」と子どもたち同士で話し合い、何度も挑戦していました。

火花が散った！！！自分で火つけれたよ！！

私もつけれた！二回できたよ！！

今度は火を火種に移したい！

火花を散らせることはできたけれども、ティッシュや綿など簡単に燃えそうと思えるものにも火が移らず、大苦戦していたので、その日の午後に保育者が調べてみました。すると、ティッシュなどは繊維が多いため、“炭素化”という作業が必要なことが分かりました。“炭素化”させるためには、缶の中でティッシュを少しだけ燃

やし、蓋を閉めて火を沈下させる必要がありました。

そこで、子どもたちにも説明し、一緒に炭素化させて火種を作ってみることにしました。火種をつくり、そこに火打ち棒で火をつけてみると…！なんと！火が移り、ティッシュを燃やすことに成功しました。子どもたちは昼間になかなか火が移らなかったこともあり、「やったー！！」「火が移った！！」「燃えた燃えた！！」と大興奮で大喜びでした。

実際に火熾しをしてみる！

火種に火を移すことに成功したので、翌週、実際に火熾しをしてみることになりました。その時に、燃えやすいものと燃えにくいものがあることに気づいてほしいという保育者の思いから、子どもたちが燃やしてみたいものも持ってきていいよと伝えていました。なので、月曜日(12/10)に子どもたちが各々燃やしてみたいもの、キャベツや玉ねぎの皮、お菓子の包装紙、みかんの皮を焼いたもの等を持ってきていました。

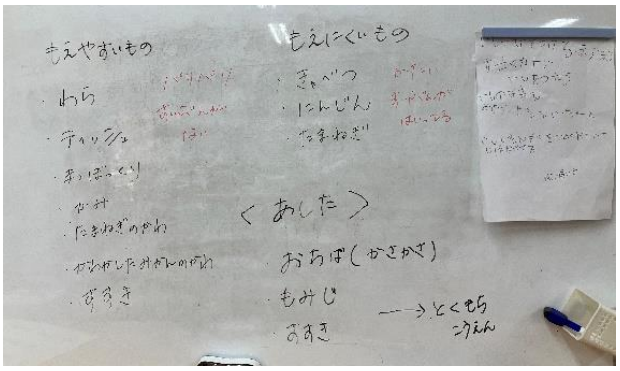
その日の午前中に行っていた公園でも、「なんか燃えそうなものないかな？」と松ぼっくりやカラカラの葉っぱ、実なども拾ってきていました。

そして、燃やしてみたいものも準備し、いざ火熾しに挑戦しました。炭素化させて火種をつくったら、そこに火花を散らせて着火させ、さらにその火を大きくさせていくために燃えやすいもの、紙や藁などをいれていくつもりで子どもたちも近くでスタンバイしていました。しかし…火を大きくするのがすごく難しく、大苦戦…。小さな火はつくので、うちわでも丁寧に仰いだり、フーフーしたりと火を大きくしようと頑張るのですが、大きくなる前に消えてしまいなかなか上手くいきませんでした。

それでも、何度も何度も挑戦し、「次はできるよ！」「もう一回やろう！」「火種をつくる人たちと、火打ち棒で火やる人と別れてやろう！」「ゆっくり仰いだほうがいいね！」などと子どもたち同士でも相談し、試行錯誤すること１時間半、ついに、大きな火をつけることができました！「できたー！」「火ついたよ！！」「みて！！大きな火になった！」「すごい！！」「やったね！！」とみんなで手をたたいて大喜びしました。

燃えやすいもの燃えにくいもの実験開始！

熾した火に燃やしてみたいものを入れてみる実験がはじまりました。「うわあー！たまねぎの皮一瞬で燃えたよ！」「すすきがすごい！すすきもっといっぱい取ってこようよ！」「わらもよく燃えるね！」「キャベツは全然燃えないね！」と大興奮。実験結果、玉ねぎの皮やみかんの皮を焼いたもの、すすきなどはよく燃えるけれども、キャベツやかりん、分厚い葉っぱなどは燃えないことがわかりました。それどころか、燃えにくいものは火を小さくしてしまうことがわかったのです。その結果を受けて子どもたちから、「軽いものはよく燃えるけど、重いものは燃えにくいんじゃないかな？」「水分がたくさんあると燃えにくいってことか」という声があが



火を大きくできるものを拾いにいこう！

火曜日(12/11)、前日の話し合いで、燃えやすい物を拾えるところに行きたいということになり、徳持公園に行きました。徳持公園にはカラカラの葉っぱやどんぐりの皮などがたくさん落ちており、「昨日、たまねぎは燃えなかったけど、たまねぎの皮は燃えたから、どんぐりも皮なら燃えるんじゃない？！」とどんぐりの皮をたくさん拾う様子がありました。また、藁もよく燃えたので、「藁みたいな葉っぱがたくさん落ちてる！拾おう！」と昨日の経験を生かして拾うものを探していました。

大きい火を維持したい！

火を熾すことができて大喜びした翌日、二回目の火熾しをすることになりました。二回目の火熾しは“30 分くらいで火をつけること”と“燃えやすいものがなにか確認すること”をテーマにして始まりました。前日の午後に園長先生たちが、炭素化してくれていたおかげで今回はすぐに火種に火をつけることができました。しかし、大きい火を維持することは難しく、次の課題として浮上しました。子どもたちも「今回はすぐに大きい火がつけられたのに、大きいままにしておくのが難しい！」「すぐに煙だけになっちゃう！」と大苦戦…。かといって、燃えるものを入れすぎると「落ち葉入れすぎでまた火がちいさくなってるよ！」とこれもまた上手くいきません…。

そこで、大きい火を維持させるためには…と考え、話し合い、「炭とか大きいに木に燃え移らせられないかな？」と意見が出てきました。そこで、「炭や大きい木に燃え移らせるためには、とりあえず火を消さないことが大事そうじゃない？」と声掛けしてみると、「そうだね。火は消しちゃだめだ」と火を消さないように落ち葉など燃えやすいものを入れ続け、火の加減を見ながら空気を仰いで入れている様子がありました。「もっとやさしい風！」「もうちょっと強い風にしてみて！」と火を見る人・うちわで空気を送る人・燃えるものを入れる人

と自然に役割分担をし、挑戦している様子がありました。しばらく頑張っていると、大きい木に燃え移り、火は大きくなり、そのまま維持させることに成功しました！「火ずっと燃えてるよ！」「大きい火のままだから、アジ焼けるね！」「燃えるものを入れ続けないといけないってことだね」「そう！そこから大きい木に燃え移らせるの！」と試行錯誤し、子どもたち同士でも相談し、成功までたどり着いていました。

BBQしたい！

火熾しがはじまってしばらく経った頃、「マシュマロ食べたいね」という意見がでてきました。じゃあ、「BBQする？」と聞くと、満場一致で「したい！！」と意見がまとまりました。そこで、火熾しと平行して12/13(金)にBBQをするために向けても走り出しました。

「BBQするの楽しそうだよね！なに焼く？」と聞くと、「マシュマロー！」「ウィンナー！」と意見がでてきました。そこで、「それも美味しそうだよね！でもいままで食べたことないものも焼いてみたくない？」と聞いてみました。すると、「え！いいね！なににする？」と子ども会議が始まりました。子ども会議の結果、先日、ブリの解体ショーをみた経験から、自分たちでもアジをさばいて、丸焼きにして食べよう！ということで話がまとまりました。

上記のような流れで13日はアジを魚屋さんに買いに行き、アジをさばいて、火熾しをし、丸焼きにして食べる(マシュマロとウィンナーも)スペシャルな一日になることが決まりました。

13日にBBQをすることになったので、13日がこの火熾し大作戦の一つの区切りになると思い、保育者もそこに向けて走り出しました。 「大きい火を維持したい！」という思いも、BBQが決まっていたため、「アジを焼くには小さい火じゃ駄目だよね」という子どもたちの思いから出てきたものだったように思います。

13日当日！火を熾してアジを焼いてみた！

13日のBBQ大会をファイヤーフェスティバルと名づけ、子どもたちはその日を本当に楽しみしていました。

当日は、午前中に魚屋さんとスーパーに行き、アジやマシュマロなどを買ってきて、給食を食べた後に、アジをさばきました。

そして、いざ火熾しに園庭に向かいました。アジを焼くため、40分以内には火をつけたいと意気込み、火熾しがはじまりました。大きい火を維持させるためには、炭や大きい木に火をつける必要があることを前回の火熾しで学んでいたので、今回も「炭はいってる？」「大きい木は？」と確認する様子がありました。炭素化させたティッシュ、火種に火打ち棒で火をつけるのはもうお手の物のらいおん組さん。2.3回チャレンジすると、すぐに火種に火がつきました。そして、その火が炭に燃え移り、大きな火を維持させることもできました。

塩かけてね！！

火加減どう？

いい感じだよ！

落とさないようにね！

わかった！

自分たちで熾した火でアジが焼けた！

アジを網において、火の様子も見守りながらしばらく待つと香ばしいいい匂いがしてきました。「もういいかな？」「もう食べれる？」とワクワクが止まらない様子で網の周りでアジに釘付けの子どもたち。「食べれそうだね！お皿に移そう！」というと「やったー！」「慎重にね」「落とさないでね」とお皿にアジを移し、おいしいアジを焼き上げることができました！

「おいしいね！」「最高だよ！！」「100 点満点だね！もっと食べたい！」と大盛り上がりでした。自分たちで熾した火でマシュマロもポークピッツも焼き、大満足のらいおん組さんでした。

すべての活動が終わった後、振り返りをするために子ども会議をすると、「火熾しが楽しかった！」「大きい火のままにするのが難しかったけど、面白かった！」「アジが美味しかった！」などの様々な意見がでてきました。

きっかけは子どもたちの焚き火ごっこという日常の中でしていた些細な遊びでしたが、そこから、やりたいの思いがクラスに広がっていき、子どもたち同士で話し合い、考え、思いを形にすることができました。火や落ち葉などの自然とも一体となり、とっても楽しい活動になりました。

なんでこんなにおいしいの？！
アジ食べたことあるけどこんなにお
いしいのはじめて！！！

自分たちで熾した火でアジが焼け
たよー！！！美味しそう！！

火熾し大作戦を振り返るその1

一人の子どもの「石で火つけれるんだよ！」という発言が面白いなと思い、「ここから広がるかもしれない」と保育者も子どもの遊びのなかに入って、活動を進めてきました。それまでも何度か、“火熾し”を体験していたからこそ、火熾し遊びが生まれ、そこから子どもの「いいこと思いついた！」が生まれたのかなと思います。

この活動をしている最中に、石井先生(大妻女子大学教授)からの助言もあり、「幼児期に火を扱う価値について」考える機会がありました。現在、義務教育でも取り扱われることがなくなった火を幼児期に扱う価値とはなんなのだろうか。それは、火だからこそ起きる思考の広がりや、濃密な話し合い、体験など、多様な物事が生じ、広がりをみせることであるのではないかと思うのです。

例えば今回の活動で考えるならば、「石から火ってどうやってつけるんだろう？」「つく石とつかない石があるのかな？」という思考の広がりや、「なんで火花は散るのに、ティッシュには燃えないんだろう？」「風が強いからかな？」「炭素化って作業が必要みたいだよ！」「炭素化したティッシュなら燃えた！やったー！」という挑戦・失敗・成功、「燃えるものってなんだろうね？」「水分が少ないものが燃えるんじゃない？」「この前やったときは黄色い葉っぱは燃えなかったじゃん！」「たしかに！」という話し合いからの共感、納得など、火を扱った活動だからこそ起きた広がりであるように考えます。これこそまさに、幼児期に火を扱う価値だと思うのです。

今回の活動のように子どもたちが興味を絶やさずに、遊び込むということはどんな遊び、どんな働きかけでも起きるということではないように体感的に感じています。日々の保育と今回の活動を比較したときにも、火はその盛り上がりが起きやすいという性質があるように感じます。火が持つ魅力、人類の根源的な本能をくすぐる魅力であるように一般的には言われていますが、まさにその火がもつ魅力に魅了され、活動が展開していきました。「火種がついたよ！」というようなドキドキ感や「次はどうなるかな？！」というワクワク感に突き動かされて、盛り上がりが継続していきました。

火熾し大作戦を振り返るその2

今回の活動自体は、2週間で行われた活動でした。(秋祭りや焼き芋大会での火熾しとは別に)保育者が想定していたものを越えてくる盛り上がりと、子どもたちの本気の思いや発想に突き動かされて、保育者もチャートを探しに行ったり、環境を設定したりしていたように思います。そして、さらに保育者の本気が、クラス全体にも広がっていき、クラス全体の子どもの本気にも繋がっていったように思います。

一方で、夢中になれる遊び(深まる遊び)に出会えること、出会わせてあげられることはなかなか難しいのも現実です。だからこそ、子どもたちの興味関心の種を拾い、丁寧に育てていくことも保育者として子どもを取り巻く大人として大切なことであると改めて感じました。子どもたちにとって、「やりたいけどできない！」の状態はとっても面白く、「やりたいけどできない！だからやりたい！」になっていくように思います。火は危険なものであり、普段触らせてもらえないものであったため、「やりたいけどできない！」に近いような思いが子どもの中に生まれやすかったのかなとも思いました。

今回の火熾し大作戦が、これから先の子どもたちの人生でも豊かに根を張ってくれれば嬉しいなと思います。